




I C T 授業実践例（農業・水産）

1 対象学科・学年・人数	食品科学科 2年生 20名	
2 科目・単元名	食品製造	穀類の加工（デコレーション）
3 使用した I C T 機器	書画カメラ プロジェクタ パソコン	
4 活用のねらい	細かい作業を書画カメラを使いスクリーンに映し出すことで、多くの生徒が見やすくなる。また、作業手順を繰り返し投影することで、一度の説明で理解しきれなかった手順を生徒が確認しながら作業をすることができる。	
5 I C T 活用の場面	学習内容・活動	I C T 活用の場面
	フルーツソースを使用したデコレーションを見る。	示範の様子を書画カメラで撮影し、全ての生徒が示範を見ることができるよう、スクリーンに映す。
	自分の作品を製作する。	作品製作の参考にするため、デザインの例をスライドショーでスクリーンに映す。
6 I C T 活用のポイント	 <p>電源コード等が邪魔にならないように、つり下げ式の透過型スクリーンを活用する。</p>	 <p>示範者の手元を書画カメラで撮影して、スクリーンに投影する。</p>
	 <p>書画カメラで生徒の作品を撮影する。</p>	 <p>生徒の出席番号を記入して撮影し、実習後の反省や評価に活用する。</p> <p style="text-align: right; color: white; background-color: red; padding: 2px;">デジタル教材</p>
7 生徒の反応	ふだんの授業では示範の手元を見るが多いため、スクリーンがあっても示範を見る生徒が多かった。アンケートにはスクリーンへの投影は見やすく、分かりやすかったと答えた生徒が多かったが、書画カメラでリアルタイムの画像を見る場合は、タイムラグがあったり動きが滑らかでなかったりしたこともあり、見にくかったという意見もあった。	
8 今後の課題	I C T 機器の取り扱いに経験不足の部分が多く、活用場面を増やすことで準備から使用・片付けまでスムーズにできるようにしたい。また、授業の中で I C T 機器の使用頻度を増やすだけでなく、より学習効果が高くなる場面で効果的に使用できるように、授業内容や I C T 機器の活用方法を精選する必要がある。	